

本田周辺の畦畔で斑点米カメムシ類が多発！ 適期防除を実施しましょう！

- ・作物名： 水稻
- ・病害虫名： 斑点米カメムシ類
- ・対象地域： 県内全域
- ・予想発生量： 多
- ・発生時期： やや早い(第2世代成虫発生盛期：8月第3半旬)

巡回調査：7月13～16日

定点調査は：大崎市古川大崎(古川農業試験場)

天候予報：仙台管区气象台7月16日発表

1 予報の根拠

- (1) 県内中生品種の出穂期は平年並の7月30日頃と予測される。(宮城県米づくり推進本部7月22日発表)(±/)
- (2) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第3半旬であり、平年よりやや早かった。また、第2世代成虫発生盛期は平年(8月第4半旬)よりやや早い8月第3半旬と予測される。(- /)
- (3) 巡回調査の結果、本田周辺の畦畔では斑点米カメムシ類の発生地点率は平年よりやや高く、調査地点の9割で発生が確認された。(/ +)すくい取り虫数は平年並であった。(/ ±)
- (4) 発生の主体はアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメであるが、大型のホソハリカメムシも複数地点の畦畔で確認されている。(/ +)
- (5) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予測されている。(/ +)

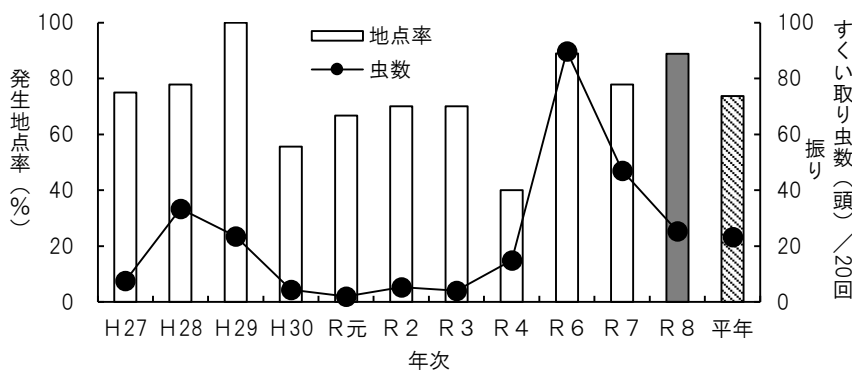


図1 水田周辺畦畔における斑点米カメムシ類の発生地点率とすくい取り虫数(7月中旬)
※令和5年度は調査方法が異なるため除いた。



写真 アカスジカスミカメ

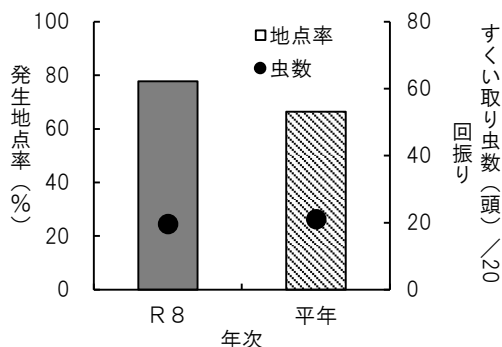


図2 水田周辺畦畔におけるカスミカメ類の発生地点率とすくい取り虫数(7月中旬)

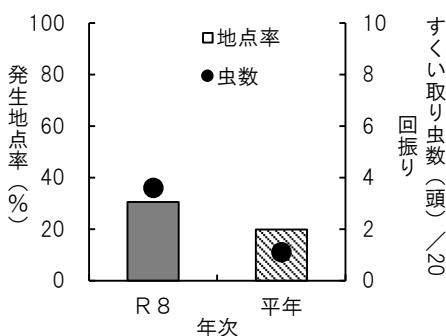


図3 水田周辺畦畔におけるホソハリカメムシの発生地点率とすくい取り虫数(7月中旬)



写真 ホソハリカメムシ

2 防除のポイント

- ・水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10 日後の2回が基本である。ほ場をよく観察し、遅れないよう防除を実施する。
- ・イヌホタルイが多発しているほ場では、1回目の薬剤散布を「出穂始～穂揃期」に行うことで、アカスジカスミカメの密度を低下させ被害を軽減できる。
- ・ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤 10 等)、エチプロール水和剤(キラップフロアブル)、スルホキサフロール水和剤(エクシードフロアブル)はアカスジカスミカメに対する防除効果が高く、特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができる。
- ・水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むことになるため、水稻の生育状況を確認し、出穂 10 日前までに実施する。
- ・出穂期予測を参考に適期防除を実施する。今後の天候が平年並であると仮定すると、県内中生品種の出穂期は7月 30 日頃と予測されている。

表 地帯区別の生育ステージの予測(令和8年7月 10 日現在)

地帯区分	田植盛期	出穂期
北部平坦	5/12	7/30
南部平坦	5/12	7/28
仙台湾沿岸	5/12	7/30
西部丘陵	5/13	7/30
三陸沿岸	5/12	8/4
山間高冷	5/15	8/13

注 1) 出穂期は、「DVR 法」による予測である。

気温はメッシュ農業気象データ(農研機構)により、当日までの実況地とその後 26 日間の予報値を使用している。

注 2) 移植時期の葉数は県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」の平均 3.0 葉とした。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています。



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム